

農地中間管理事業推進事例

平成27年8月3日

- 1 対象地区 美里町広木・駒衣地区（農地面積：78ha）
- 2 農地中間管理機構活用面積 44ha
- 3 主な推進経過
 - （1）第一回集落全体説明会（平成26年9月5日 広木会館）
担い手及び地権者約70人に対して、農地中間管理事業の仕組み等を説明
出し手側の関心高く、事業実施に前向き
 - （2）第一回担い手検討会（10月9日 広木会館）
担い手を集め、賃借料や出し手へのアプローチ方法等について検討
 - （3）第二回集落全体説明会（11月3日 広木会館）
担い手及び地権者約60人と賃借料を協議、また、貸出等に必要な具体的な事務手続を説明
賃借料は、水田：6,500円/10a、用水費は担い手負担、畑：3,000円/10a
 - （4）第二回担い手検討会（11月12日 美里町役場）
担い手に対して、各々の耕作エリア(案)を提示、意見交換
 - （5）受け手の公募（10月30日～12月1日 インターネット）
機構が受け手を公募し、地域の11経営体が応募
 - （6）機構による借受（平成27年1月1日）
出し手から機構が44haを借受
 - （7）利用配分計画案策定（1月26日）
 - （8）第三回集落全体説明会（2月27日 広木会館）
地域集積協力金の活用方法等を協議、また、利用配分計画図(案)を提示
地域集積協力金の活用方法等については地区代表者会議設置へ
 - （9）第一回地区代表者会議（3月19日 美里町役場）
区長、農業委員、担い手、出し手等の代表者9人で地域集積協力金の交付先、使用方法について協議
除草用機械購入等の意見、継続協議へ
 - （10）機構による貸付（3月31日）
機構から受け手に44haを貸付

4 推進のポイント

- (1) 比較的担い手が活動している地区を選定
- (2) 担い手別の耕作ほ場を地図化し、経営規模や分散状況を把握
- (3) 担い手との事前調整、集積・集約について基本合意
- (4) 出し手への個別推進等を担い手と一体となって実施

5 集積・集約の状況 (凡例のアルファベットは担い手を示す)



実施前
(担い手の耕作面積：32ha)

実施後
(担い手の耕作面積：44ha)

6 取組の効果

- (1) 担い手(受け手)
 - ア 広範囲に散在していた耕作地が一定のエリアに集まり、作業効率が格段に向上した。
 - イ 新たな貸付希望者が現れ、耕作面積が拡大した。
- (2) 出し手
 - ア 耕作を依頼する際、自分で探す必要がなくなった。
 - イ 今回の取組を機に、地区内に担い手へ貸し出ししやすい雰囲気醸成された。

7 近隣への波及

美里町古郡地区でも27年1月から推進を開始し、現在までに担い手会議5回、集落全体会議2回を実施しており、賃借料及び担い手の耕作エリアについて基本合意ができた状況

水田：4,000円/10a、用水費は担い手負担、畑：3,000円/10a